


要領様式第2号

出張報告届

令和2年10月26日

吹田市議会議長様

会派名 自由民主党絆の会

出張者氏名 白石 透 

..... 

..... 

..... 


..... 

..... 

..... 

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出張先	アットビジネスセンター池袋駅前本館(東京都豊島区)		
期間	令和2年10月22日から10月22日まで1日間		
出張の成果	別紙のとおり		
備考	議員・職員のための自治体議員レベルアップ講座 in 東京 「地方議員のあるべき姿、役割と地方議会の改革」 「東京一極集中の功罪と地方分散・創生のあり方」	認 印	会派代表者
			

吹田市議会事務局  
2020.10.26  
受付

(株) 地方議会総合研究所

報告書

自治体議員レベルアップ講座

地方議員のあるべき姿、役割と地方議会の改革

東京一極集中の功罪と地方分散・創生のあり方

日程：10月22日

場所：アットビジネスセンター池袋駅前本館501号室

講師：中央大学名誉教授 佐々木 信夫

佐々木先生の講演内容にて、3密都市の典型が東京23区。国土面積のたった0.2%に過ぎない狭隘な所に1000万人が住み、昼間人口は1300万人まで膨れている。都心部に政治、経済、情報、文化など高次中枢機能が一点集中し、タワーオフィス・マンションが林立。地下鉄網が発達し便利だが、集中豪雨や大震災、感染症など“災害リスク”は極めて高い。

こうした東京リスクをどう絶つか、そして日本全体がバランスよく発展する国づくりをどうめざすかだ。

これまで日本は半世紀にわたり、地方への工場の立地分散を狙い、全国総合開発計画などを進めてきた。だが、そうはならなかった。ただ、さいわいにその間に新幹線や高速道、空港など3大高速交通網

が整備され、動き易くなった。ところが、今のままだと集中体制の温存でストロー効果が働くだけであり、その果実は東京に一極集中し、地方は疲弊する構図に止まる。

これをどう変えるかが肝だ。

日本は米カリフォルニア州1州ほどの小さな国。3大高速網がよく整備され、端から端まで行くのにそう時間はかからない。だが、カネ(費用)が掛かる。これがバリアになって東京圏から人も企業も出ない。ここを治すとよい。新幹線、航空機の運賃を国や都の負担で実質タダにする。そうすると、人も企業も広範囲に散らばる。国は毎年地方創生に5兆円も使っているが、パツとしない。狭隘で高密度な東京の再開発コストはもっと高い。その割に効果は薄い。大変ムダな投資ではないか。

そんなことより、このカネを広域分散が進むよう移動コストの削減にふりむける。3大高速網の利用に公費を投入。実質タダで動けるようにする。

すると、本社は東京でも新幹線沿い、高速道沿い、地方空港沿いに様々な支店、サテライトオフィスが集積し人も企業も動く。これを「日本型フリーパス構想」と呼ぶ。人口8000万人時代が来ても、

高度ハイテク技術で現在のGDP 500兆円を維持する。そうすることで豊かな国ができる。人々は文化、芸術を楽しみ、ゆとりある暮らしに向かう。次の時代、活力ある高度産業国家日本の姿はここにある。時代状況は大きく変わっている。改革を恐れることなく突き進むことだ。日本政治がやるべきことは将来展望をもってこの実現にあたることではないか。と結んだ。

日本の人口減少の大きな理由の一つである、東京一極集中を改善するためにも、我々、地方議員、私なら吹田市の現状を十二分に理解し、豊かな暮らしができるようレールを敷き、次の世代へとバトンを渡していかなければならないと感じる。

それが地方議員のあるべき姿だと思う。

パソナグループの1200人の淡路島への段階的な移動などを見守りながら、吹田市の参考になるような事もあるのではないだろうか。